〔概要〕

本研究の目的は，富山県氷見市にある湖南小学校を事例に，学校統廃合による学校区の拡大が子供の遊び空間に及ぼす影響を検討するものである．少子化による子供の数の減少に伴い，学校統廃合が進んでいる．学校区は子供の生活圏と大きく関係しており，統廃合は子供の生活に影響を与えることが考えられる．調査は，現在湖南小学校に通う児童と，統廃合前の湖南小学校の卒業生を対象に行った．調査の結果，学校区が広くなりすぎた結果，放課後に遊びに行くには時間がかかるという距離と時間の制約がとても大きいことが明らかになった．また，習い事により放課後に十分な遊び時間を確保できていないことも明らかになった．これらの要因から統廃合によって学校構成人数が増加するも，放課後に遊ぶ遊び集団の構成員までに影響することは少なかった．一方，聞取り調査から外遊びをする子供の少なさが明らかになった．外で気軽に安心して遊べる場所が少ないことが要因の一つであると考えられる．今後，統廃合対象校は増え，学校区は拡大していく一方である．学校区の広さが制約となり，放課後の子供の遊びの行動範囲は縮小していくことが考えられる．

キーワード：学校統廃合　遊び空間　小学生　学校区の拡大　習い事